

レイチェル・カーソン生誕109年の集い

- ◇日時：2016年 5月26日(木) 13:10~20:30
- ◇会場：北海道大学・遠友学舎(札幌市北区18条西7)
- ◇記念講演第1部：13:30~15:30
「遺伝子組み換え(GM)作物の輸入開始から20年
なぜ、日本人は『世界で一番GM食品を食べている』のか？」
講師：富塚 とも子 女史 (はかーる・さっぽろ)
- ◇記念講演第2部：18:15~20:20
「原発はいらない、自然エネルギーで行こう！
—地域の自然エネルギーを活用して元気な地域を—」
講師：大友 詔雄氏 (自然エネルギー研究センター)

私たちの会は、レイチェル・カーソン(1907-1964)の著作、思想、生き方に学び環境を大切にします。とりわけ未来をになう子どもたちに自然の不思議さに目をみはる感性(センス・オブ・ワンダー)が育まれるように、多くの市民と共に環境問題を知り・考えるための活動を行っています。

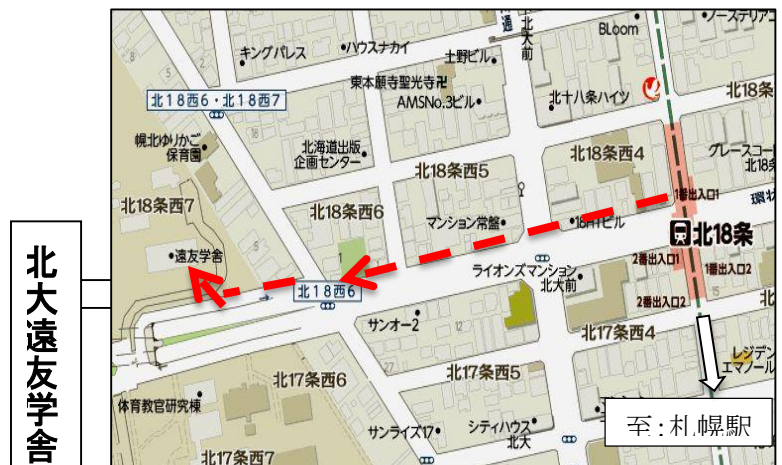
生誕109年、「沈黙の春」出版から54年の“この春”、レイチェル・カーソンが私たちに残してくれたものは、ますます重要になってきました。レイチェル・カーソンが伝えたかったこと。今を生きるヒントがそこにあるのかもしれませんが。どうぞお気軽にご参加ください。

プログラム

- 13:10~13:30 開会の挨拶 沼田 勇美(共同代表)
- 13:30~15:30 記念講演第1部 富塚 とも子 女史
- 15:30~16:30 パネルディスカッション;定例学習会を通して学んだ1年間の成果
- 16:30~ 「レイチェル・カーソンの歩んだ道」パネル展示と説明ならびに懇談
- 18:15~20:20 記念講演第2部 大友 詔雄 氏
- 20:20~20:30 閉会の挨拶 近藤 務
(共同代表)

入場無料
事前申込み不要です

主催：レイチェル・カーソン北海道の会
後援：札幌市・札幌市教育委員会
問合せ：沼田 ☎080-3265-4382 yummie624@hotmail.co.jp
レイチェル・カーソン北海道の会・HP：<http://gisjirou.blog.fc2.com>



会場の案内図

地下鉄南北線・北18条駅下車西に向かって徒歩8分

講師のプロフィール

◆ 記念講演第1部 13:30～15:30

「遺伝子組み換え(GM)作物の輸入開始から20年
なぜ、日本人は「世界で一番GM食品を食べている」のか？
富塚 とも子 女史 (はかーる・さっぽろ)



■ 経歴

1958年生まれ。北海道大学農学部卒業。

子どものアトピー性皮膚炎発症を機に、食の安全・安心を考える市民活動に参加。命をはぐくむ「食」をキーワードにさまざまな生活課題をコミュニティの力で解決することを目的とする市民団体「さっぽろ食まちネット」、市民の依頼で食品の放射能濃度を測定する「さっぽろ市民放射能測定所はかーる・さっぽろ」代表。遺伝子組み換え作物、原発、TPP など、食の安全を脅かす問題についての情報提供活動を行っている。札幌市在住。

◆ 記念講演第2部 18:15～20:20

「原発はいらない、自然エネルギーで行こう！
—地域の自然エネルギーを活用して元気な地域を—
大友 詔雄 氏(自然エネルギー研究センター長・工学博士)



■ 講演要旨

「原発から自然エネルギーへのシフト」は世界的な潮流となっています。日本は世界とはまったく逆の方向に突き進んでいるように見えます。このような中、あらためて、何故原発ではダメで、自然エネルギーでなければならないのか、自然エネルギーという地域資源を活用することで地域がどう変わるのか、そして「原発ゼロ社会」＝「自然エネルギー社会」とはどういう社会か、等々について皆さんと考えてみたいと思います。

■ 職歴・経歴

1945年北海道江別市生まれ。

北海道大学工学部電子工学科卒。同大学院で原子核工学専攻。日本原子力研究所原子炉物理研究専門委員も務めたが、1975年「原子力はいえない技術である」として自然エネルギーの開発・普及に転進。

1999年北海道大学発ベンチャー企業株式会社 NERC(自然エネルギー研究センター)を設立、同代表取締役、センター長として、地域の産業振興に奔走。道内各地および全国で実践的指導や講演を行っている。

NPO・NEPA(北海道新エネルギー普及促進協会)理事長(2012年退任)、北海道木質ペレット推進協議会会長(2012年退任)を経て、現在、総務省地域資源・事業化支援アドバイザーとして、全国の自治体の自然エネルギーの取組の助言・指導に当たっている。

■ 著書

『自然エネルギーが生み出す地域の雇用』2012年 『原子力技術論』1990年、など。

「レイチェル・カーソン北海道の会」からのお知らせ

私たちの会は2006年9月に設立し10年が経過しました。翌2007年5月にレイチェル・カーソンの生誕100年の集いを行い、以後、毎年、生誕祭としてパネル展と外部講師による記念講演を開催し、環境問題を市民とともに考えています。

また、8月を除く毎月第4木曜日にレイチェル・カーソン著作等の定例学習会を行い、同女史の思想、生き方を学んでいます。

定例学習会は北海道大学遠友学舎で15:00～17:00に開催していますので、一緒に学習いたしましょう。



<モナーク蝶・オオカバマダラ>

北アメリカ大陸を数千kmに渡り移動する蝶であり、レイチェル・カーソンは自身の役割と余命を重ね合わせみえました。